

地域から学ぶ地域と共に学ぶ 自らの生き方につなぐ安芸高田郷土 (ふるさと) 学の推進

地域の
特色ある
活動

広島県安芸高田市教育委員会

1 はじめに

「安芸高田市」は、平成16年3月、旧6町が合併して誕生しました。本市は、広島県の中北部に位置し、中国山地の山々に囲まれた、緑と清流に恵まれた自然豊かな地域です。日本100名城の「郡山城」、国の史跡「甲立古墳」、伝統を継承している神楽など、豊かな自然と歴史、文化に恵まれています。一方で、人口減少、少子高齢化の進行を止めるには至っておらず、過疎化による子供の数の減少により、学校数も減少の一途をたどっています。

このような本市が抱える課題やこれからの社会の進展に前向きに立ち向かうとともに、市民一人一人が本市に誇りをもち、心豊かに笑顔で生活していくことができる安芸高田市を目指し、様々な施策を進めています。

2 郷土理解学習副読本の活用

教育委員会では、平成27年3月、ふるさと「安芸高田市」について学び、郷土に対する自信と誇りをもち、これからの人づくり・まちづくりにつなぐとの思いから、郷土理解学習副読本「安芸高田市ものがたり(小学校編)」「郷土!安芸高田市(中学校編)」を発刊しました。市内各小中学校では、教科書に準ずる補助教材として、社会科や総合的な学習の時間等で活用しています。「地域の宝」である子供たちが、ふるさと「安芸高田市」に関心をもち、探究し、



歴史・文化、今の暮らしを学ぶことを通して、地域をはじめ、国の歴史や伝統文化を尊重し、ともに歩んでいける力を身に付けてほしいという願いを込めています。

3 安芸高田郷土(ふるさと)学

安芸高田郷土(ふるさと)学は、子供たちが、ふるさとの自然や歴史、伝統文化、産業、暮らし、人について学ぶことを通して、自らの生き方を考え、将来の夢や生きる自信をもたせることをねらいとした学習です。郷土理解学習副読本や地域の資料館を活用し、地域の様々な人々からの聞き取り等を通して、自分たちが住んでいる地域を知り、地域を支える人々から生き方を学ぶことは、自分自身を知り、自分の生き方を考えることにつながります。地域は社会の縮図です。身の回りにある課題や社会の問題は、常に身近に存在しているにもかかわらず、自ら意識的に見ようとしなければ決して見えてこないものです。何気なく周りを見渡しても、社会を見つめる目は育ちません。本市では、この安芸高田郷土(ふるさと)学を通して、子供たちが自分を取り巻く足元に主体的に目を向け、地域を深く知り、地域を支えてきた様々な人々と関わる中で、社会を見つめる目を養うことができると考えています。

【事例】安芸高田神楽 応援プロジェクト 美土里こども神楽 盛り上げ隊

安芸高田市は伝統芸能の神楽がさかんな地域であり、中でも美土里町は複数の神楽団があり、町内にある「神楽門前湯治村」の神楽ドームでは、毎年、地域の小中学生による「こども神楽発表大会」、高校生による「神楽

甲子園」などが開催されています。美土里小学校では、地域で愛されているこの神楽を題材として学びをスタートさせました。アンケート等から、神楽は多くの人に知られていますが、実際に神楽を観る回数にはかなり差があることが分かりました。子供たちは「もっと『安芸高田神楽』の魅力を伝えて、神楽を観てもらおう」と「安芸高田神楽応援プロジェクト」を立ち上げました。「神楽には、どんな魅力があるのだろうか」「なぜ、今でも引き継がれているのだろうか」という課題を探究していきました。

探究の中で、一番大切にされたことは、人との出会いです。もちろん、書籍やインターネット、資料館等を活用し、歴史やルーツ、演目や道具、衣装の違いなどを調べ、「安芸高田神楽」の魅力を探っていくことも行いました。しかし、それだけではなく、神楽団の団長や神楽の面づくり名人、地域おこし協力隊等、神楽を継承し広めている方々と出会い、神楽への熱い思いや願いを聞く中で、地域とつながることができ、地域の宝を大切に引き継ぐことへの誇りや生き方を学ぶことができたのです。



美土里こども神楽発表大会での活動

子供たちは「美土里こども神楽発表大会」を盛り上げるために、宣伝のためのチラシ配りや新聞社への売り込み、「安芸高田市地域おこし協力隊」にフェイスブックで取り上げてもらうなど、様々な取組を考え、実行していきました。この探究活動は、子供たちだけでなく、地域そのものを活気づかせることにもつながっています。子供たちが夢中になって神楽について調べたり神楽を応援したりする姿を地域の人たちが目にするることによって、安芸高田神楽の魅力や地域のよさを再発見することにつながり、地域の活力となっていったのです。地域と共に学ぶことによって、子供たちにとっても地域にとっても双方の学びがある、そのような安芸高田郷土

(ふるさと) 学を引き続き目指していきたいと考えています。

4 安芸高田郷土(ふるさと)学交流会

安芸高田市には、小学校8校、中学校6校があります。平成30年度から「安芸高田郷土(ふるさと)学交流会」として、全小中学校の代表が一堂に会し、地域を探究し学んだことを交流しています。中学校区を越えて、安芸高田市全体をより深く知ることにつながっています。令和元年度の発表校である向原中学校区は、地域のよさだけでなく、人口減少という課題に対して、本市ではどんな取組がなされているのか、自分たちは安芸高田市をどうしていきたいのかについて探究したことを発表しました。本市の課題や実態と他の地域の取組とを比較・関連づけながら、人口減少を食い止めるため、安芸高田市が活性化するための問題提起と解決策を発信しました。



5 おわりに

変化の激しい予測不能な社会で、子供たちが変化に前向きに立ち向かい、主体的に学び続けていくための力を育てることが学校教育に求められています。そのためには、子供たちが様々な人とつながり、多様な経験や課題を解決する場を設けることが重要だと考えています。子供たちが、身の回りの事柄に自分事として課題意識をもち「自分たちはどう考えるか」を大切にしながら地域を学んでいく、地域と共に学んでいく安芸高田郷土(ふるさと)学を引き続き推進していくことが、未来社会に生きる子供たちの大きな財産になると考えています。



教育長
永井 初男